

説教余滴 2019年11月3日、予防接種の話。

飼い犬に狂犬病ワクチンを接種するのは、飼い主の義務となっています。保健所へ行きましょう。登録も必要です。

子どもが成長する過程で、何種類ものワクチンを接種します。厚生省が推奨するものを親が判断して受けさせます。自費の場合もありますが、多くの場合、公費負担となっています。それは、未接種の子どもが多くの感染源となり得るからです。

危険だ、陰謀だというような話がネット上で拡散しているようです。多くのものは、その根拠がありません。デマとってよいものに振り回されています。

「誰が発信しているのか、同意見の者は誰か、その根拠は何か」、ネットに流されるものは殆ど噂、それもかなり無責任なものと感じられます。上記の幾つかの点を確認したいものです。

それと同時に、私達の姿勢も見直しては如何でしょうか。私自身のことです。たとえばインフルエンザの予防ワクチンを受けましょう、という通知を戴きます。有料です、結構高い。まず、受けたくない、かからないから、体力もある、大丈夫だ。

年とともに弱くなっているのだから、危ないから、ひょっとしてかかるかもしれないから、受けることにしようか。それにしても、懐が痛いなあ。

実は、この考えの中には、自分が感染源になる、という発想が欠けています。日曜日など多くの礼拝者が教会に来る。それらの人から感染しやすいから、予防しましょう、と考えています。自分が感染していたら、それに気付かず他者と接触していたら、感染源となってしまう可能性があります。痛くても、他の人の安全のために負担するべきです。

秋沢医院で、すいているうちにやったほうがいいですよ、と奨められ、予約しました。

その翌週、衣笠病院で牧師のために接種のご奉仕をご奉仕します、という話を戴きました。